

第2回青森ねぶた祭検討特別委員会会議概要

日 時 平成17年8月26日(金) 13時30分～16時00分

場 所 青森県商工会館2F 会議室

出席者 蝦名委員長、佐藤副委員長、對馬委員、若井委員、勝又委員、千葉委員、
柳谷委員、太田委員、澤田委員、采田委員
運行団体協議会櫛引事務局長・・・オブザーバー

欠席者 武田委員、奈良委員

委員長挨拶

- ・今年のねぶた祭は天候にも恵まれ、大型ねぶた22台、子供ねぶた15台が無事事故も無く、人出も昨年並みで終了することが出来た。これも実行委員会をはじめ関係者皆様方のご支援ご協力の賜物と御礼申し上げます。
- ・第1回目は、当委員会の主旨及び性格をご理解いただき、今後この委員会で何を検討すべきかという大枠の項目について検討いただいた。
- ・第2回目は、前回いただいたご意見をもとに、検討項目及び検討スケジュールについて再度検討していただき、具体的な内容の検討としてはねぶた運行について議題にしたいと考えている。

1. 事務局より前回議事要旨の確認について説明
2. 事務局より検討項目及びスケジュールについて説明

会議概要

1. 議事要旨の取り扱いについて

- ・事務局において作成した議事要旨を委員会で確認した後ホームページに掲載する。
- ・個人のホームページでの掲載については、次回委員会において掲載内容を確認し了承を得た後とする。

まとめ 次回委員会で再度協議する。

2. ねぶたミュージアムについて

主なる発言

- ・ねぶたミュージアムに関する検討時期が5月となっているが、すでに行政サイドの検討委員会がスタートしている。この委員会に意見を反映させるためにも検討時期を繰り上げて1月2月に検討をお願いする場合もあるので予めご了承いただきたい。
- ・ねぶたミュージアムに求める機能としては、アーカイブ機能、後継者育成、通年でねぶたが見られるなどの役割が考えられる。

まとめ 検討時期は弾力的に対応する。

3. 検討内容の実現について

- ・検討項目のまとめは来年の9月になっているが、まとめの前でもできるものから随時実現していきたいと考えるがどうか。
 - ・ねぶた規格、運行コースなど来年に反映させることは出来るのか。
- まとめ 前回の委員会でも出来ることは対応していくことになっている。

4. ねぶたの規格について

主なる発言

- ・ねぶたの大きさは、昨年まで「幅9m、奥行き7m、高さ5m以内」となっていたが、今年から「幅9m、奥行き7m、高さ5mを基準とする」となった。実際は公共物を壊さなければ良いのではと考えるので、もう少し高さを認めて欲しい。
- ・実際に運行コース内の信号機、感知器、看板等を実測した。その結果、両サイド1mは5m以内にして、四角い造りはダメにする。これであれば運行の技術でカバー出来るのでもう少し高くしても良いのではないか。
- ・制作者の中には9月を過ぎると来年の構想を考える人が出てくるので、構図にも影響してくることから早く決めて欲しい。
- ・高さの限界は、信号機、感知器、ベイブリッジ下をくぐる場合を考えるとおのずと出てくる。
- ・運行の技術の善し悪しで5mでも4m50cmでもぶつけて壊すことがある。
- ・今はただ通れる寸法ということで議論している。ねぶたの大きさが将来的にこのままでいいのかという議論も必要。
- ・諸々の問題がありこれ以上に大きいねぶたを作るためには数年かかるのではないか。
- ・仮に来年の話して高さを高くした場合に障害物は何カ所あるのか。
- ・ねぶた運行コースが向こう10年確定とした場合に、このエリアの障害物を撤去するとかねぶた祭にはそのぐらい街の存在意義があると思う。
- ・ねぶた特区などで信号機や感知器が折れ曲がるようにできるとか、今すぐ公安委員会にお願いしてもなかなか出来ないと思うが、要望の優先順位をつけて挙げておくのは構わないのではないか。
- ・もう一つネックになっているのが、ラッセランドのアスパム東側からベイブリッジ下へ出るときに地面が斜めになっている。
- ・ベイブリッジ下も高さ5m60cmあるはずだが、舗装のアスファルトを敷き直すたびにどんどん低くなる。
- ・制作者に聞きたいが、ねぶたの高さは青天井に高くできれば良いのか。
- ・6m位になると現在の機材が使用できない。足場など新しく調達しなければならない。5m40cm位までは良いがそれ以上になると0から考え直す必要がある。
- ・もう一ヶ所、旧水産会館のところも難所である。
- ・旧水産会館のところは左右の樹木、電柱が相対してして通り抜けに非常に技量がいる。早急に関係機関と協議し対策を講じて欲しい。なぜそこを通るかという一次

待機のために柳町通りに行く際に、マル海ラーメンの方を迂回すると距離的に遠くなり時間がかかる。スムーズに一次待機を完了しないと二次待機の交通規制に支障がある。

まとめ 委員会として平成18年度においては高さを高くすることを認めてもらえるように関係機関に要望していく事とする。

5. 一定区画での自由運行について

主なる発言

- ・市制100周年のときに子供ねぶた地域ねぶたをあてがって自由運行をしたところ大変好評であった。市民にも運行関係者にも好評だったので是非復活させたい。また、今の若者はファッションに非常にこだわりをもっているので、人と違うファッションや自由な発想での振り付けなどでよさこいソーランがものすごい当たりをみせて全国あちこちで盛況に開催されている。よって、お祭り広場を用意しよさこいラッセラーみたいな形で自由な踊りをやらせる場があっても良いと思う。
また、小さいねぶたを2つ合わせれば一つの物語になるという合体ねぶたをやったところがある。2つの小さいねぶたが動き回り合体すると弁慶と牛若丸になる。青森ねぶたが五所川原立佞武多に対抗する一つは動きだと思があるので、この合体ねぶたのようなパフォーマンスをお祭り広場でやったら面白いと思う。
- ・今年の5日6日は22台の運行だったが一周出来なかった。市民、観光客の立場からすると全部見れないのはどういうことかとなる。運行については運行団体の協力が必要だが、祭終了後9時から柳町通りにねぶたを2台くらい置いて、もう一時間位ハネトとねぶたを見せてもらえないか。そうすると全部見れなかった人たちもそこへ行ってちょっとはねぶたの余韻を感じ取れるのではないか。ここは自由運行と同じような考えです。これについては警察との関係もある。
- ・午後9時前に祭が終了するのは、市民も観光客も満足度がいまひとつと思う。警備の問題もあるだろうが、最低午後10時、できれば午後11時位まで出来ないものか。
- ・これは制作者や運行の立場を度外視して発言しているが、その関係者としてはどう考えるのか。
- ・運行関係者としては時間を長くやることについては皆異論は無いと思う。ただ一番の問題は、警察があれだけの人数を出してあれだけの交通規制をしいている。相当な労力だと思いが、その後に柳町で更に2時間やりたいと言った時にはたしてどうか。100周年の時だからOKしたと思うが毎年となればどうか。
- ・カラス対策の機動部隊を返上できれば可能性はあるのではないか。
- ・我々は午後11時までやって終わるとすぐ帰れるが、集まった人たちが帰らず盛り上がりすぎてそこにずっといれば警察はずっといなければならない。
- ・ラッセランドを活用すれば良いと思う。カラス問題もあるがここに集めてこだけ警備するようにはどうか。
- ・前夜祭の位置付けで1日に自由運行するのはどうか。

- ・作る側も運行する側もこの件については前向きに考えて良いのか。
 - ・もう少しやりたいというのが本音だろう。
 - ・警察との関係もあるが、こういう議論の場に担当責任者にきていただくことは出来ないものか。
 - ・警察も事情は良くわかっているのでトップ同士の協議で良いと思う。
- まとめ 自由運行については次回にコース等の関連も含めて協議する。

・次回開催日

平成17年9月16日（金） 10:00～12:30

以 上